



## 2009 Formula Nippon CERUMO/INGING Race Report 第4戦 富士スピードウェイ

### ◆ 6月28日(日) Final

#### 決勝レース 結果

### #48 立川 祐路 9位

#### < フリー走行 > 天候:曇り | コース状況:ドライ

雨の可能性が強いと伝える天気予報ではあったが、9:20 から 30 分間のフリー走行は曇り空の下、気温 25°C の蒸し暑さの中で行われた。コースイン 1 周目に、チームはピットイン作業のフルシミュレーションを行う。タイヤ交換そしてガスチャージにてマシンをフルタンク状態として立川をコースへ送り出す。チームはこのセッションを決勝レースに向けた確認作業に徹した。

1 分 28 秒台でのマシン挙動を確認した立川は、一旦ピットへと戻る。その後、フロント周りに調整を加えながら、ロングランを想定したより決勝レースを戦いやすくする為のセッティング作業が繰り返された。終始 1 分 28 秒台で走行した立川のセッションベストタイムは 1' 28.473 で 11 番手を記録した。

#### < 決勝レース / 55 周 > 天候:雨 | コース状況:ウェット



ピットウォークが始まる頃からサーキットには雨が降り始める。雨脚は強くなり、決勝レースはフルウェット状態となり、セーフティカースタートが宣言された。

PM2:30、マシンはゆっくりとグリッドを離れて行く。全車隊列を組んだままセーフティカーを先頭として決勝レースは始まった。ウェービングを繰り返し、タイヤを温めながら 3 周を消化。そして、セーフティカーが隊列を離れた 4 周目、ウォータースクリーンに包まれて全車が一斉にアクセルオン。早々にオーバーテイクシステムを使う選手もいる。立川は慎重にスタートし、まずは 12 番手でホーム

ストレートに帰ってきた。5 周目には #7 国本 (LeMans) をパスし 11 番手に順位を上げたが、前を行く #40 R・ライアン (DANDELION) には、少しずつギャップを広げられてしまう。立川のマシンはヘアピンコーナー立ち上がり、シケインコーナー侵入でも振られが治まらない苦しい展開となった。

レース中盤、他車のアクシデント等で順位を 9 番手まで上げていた立川の後方から #41 伊沢 (DANDELION) が追いつけてくる。34 周目、その伊沢が 100R でスピン。コース上でストップし、セーフティカーの導入となった。燃費に苦しい他チームの車両はここで続々とピットへ向かい給油を行う。そして、天候を完全に読み切り、無給油作戦を試みていた立川にはチャンスが巡って来たはずだった。しかし何故かセーフティカーは、立川の直前で隊列を分断してしまう。38 周目にセーフティカー解除でレースはリスタート

するものの、立川の順位は9番手のままであった。終盤、ゴールに向けて1分33秒前半の好タイムを刻み攻め続けた立川であったが、順位は9番手のままでフィニッシュとなった。

優勝は雨のレースでスタートから他車を突き放した#31 L・デュバル(NAKAJIMA)。2位3位にはセーフティカー導入まで立川の前を走っていた、同じ無給油作戦だった#37 大嶋(TOM'S)と#40 R・ライアン(DANDELION)が入り、CERUMO/INGINGとしては非常に残念なレース結果となった。

#### ドライバー／#48 立川 祐路

「グリップしなかったね。ユーズドレインで賭けに出ただけで、予想以上の雨量はハイドロプレーニングでひどい状況だった。途中、水の量が少なかった時は結構いいタイムで回れたんだけどね。セーフティカーが目前に入って来て、そこでレースは終わってしまったかな。セットアップの進め方でもいろんなアイデアが出ているので、思い切ったことにもチャレンジしていくよ。」

#### 監督／竹内 浩典

「ウェットになれば作戦はノーピットの無給油で、マップを燃費優先にして挑みました。セーフティカーのメリットが活かせなかったアンラッキーな面もあってレースは残念な結果とはなりましたが、我々の問題はそんなところではありません。上位に食い込めない現状でありながら、すべての面が後手に回っています。もっと大胆に攻めていかなければいけませんね。」

